



## 教職員支援グループ（教育情報）

## プログラミング教育ってどんな授業をするの？

プログラミング教育の導入が近づいてきました。所報No. 315では、導入されることになった背景やプログラミング教育のねらいについてお伝えしました。（教育総合研究所HP参照）

今回は、実際にどんな授業になるのかを、2018年の3月に文科省より発行された「小学校プログラミング教育の手引き（第一版）」の内容と情報教育推進拠点校である赤坂小学校での実践から紹介します。

## 「プログラミング教育の手引き」より

小学校段階のプログラミングに関する学習活動が以下のように分類されました。

A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの

B 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

C 各学校の裁量により実施するもの（A、B及びD以外で、教育課程内で実施するもの）

D クラブ活動など、特定の児童を対象として、教育課程内で実施するもの

E 学校を会場とするが、教育課程外のもの

F 学校外でのプログラミングの学習機会

このうち、Aとしては次のような例示があります。

## A-①

プログラミングを通して、正多角形の意味を基に正多角形を書く場面（算数：第5学年）

【ねらい】図形の構成要素に着目し、プログラミングを使って正多角形を作図することを通して、人にとっては難しくてもコンピュータであれば容易にできることに気付くことができる。

## 先行授業実践より

このA-①の授業に挑戦された赤坂小学校の実践を紹介します。

## 1、本時の課題を確認する。

プログラミングを使っているいろいろな正多角形をかこう。

## 2、プログラミングを使って作図をする。

(1) 正三角形の作図と全体での交流。

・正三角形の内角は60°だから、60°曲がるとプログラミングしたけれど、思うようにまがらないな。

・コンピュータの命令だと曲

がるときは、反時計回りに回るから、120°曲がるようにしなければいけないな。

(2) 正五角形の作図と全体での交流。

・正三角形のときと同じように考えてやればできそうだな。

・曲がるときの角度は何度にすればいいかな。

(3) 正八角形、その他の図形の作図に挑戦。

## 3、本時を振り返る。

・人間がやるととても時間がかかってしまうことを1回プログラミングをただけで正確に書くことができるからすごいと思った。

波線のようにうまくいかない場面では、仲間といっしょに「どうしてこうなったのかな」「どうすればいいかな」と考え、プログラムを修正し試行錯誤を繰り返していました。まさに「プログラミング的思考」を働かせている場面でした。そして、授業を通してプログラミングの働きよさに気付くことができました。授業後の子どもたちは口をそろえて「楽しかった!」と感想を述べていました。

今後も現職教育や所報を通して、実践事例について紹介していきます。



## 児童生徒支援グループ（少年支援）

### 夏休みの個別支援のあり方について

夏季休業中の指導は、そのほとんどが家庭に委ねられますが、配慮を要する児童生徒には以下のようなアプローチが可能です。

#### (1) 夏休み中の個別支援

- ①一緒に活動する機会を大切にする
  - ・学習会、部活動などは、子どものよさ、特性を知るチャンス。
- ②学習状況を見届ける
  - ・個によっては目標を立て直す。
  - ・一人でも頑張れる方向にすすめる。
  - ・短い期間で区切って見届ける。

「次は1週間後、〇ページまでがんばろう」

#### ③ 8月下旬からのアプローチ

- ・9月初旬の見通し（体育大会などの行事も含む）をもたせる。
- ・本人の意志を尊重して、保護者とも一緒に行事等への参加の仕方を考え、励ます。
- ・夏休みの学習状況を認め、2学期への励みにする。

#### (2) 夏休み後（2学期はじめ）の個別支援

- ①学習状況を見届け、課題は期限で区切る
  - ・「宿題ができていない」を欠席理由にさせない。
  - ・個別目標に合わせ、夏休み中に支援する。
- ②2学期の目標を明確にし、やる気あふれるスタートにする。

### ポジティブな実践を生徒指導に活かす！

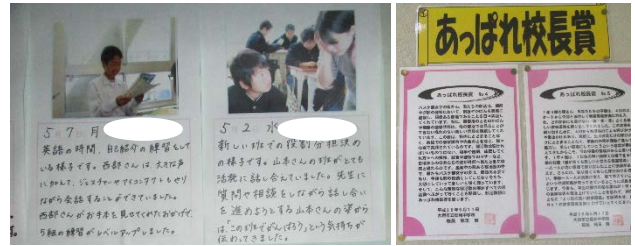
「PBIS（ポジティブな働きかけで問題行動を減らす生徒指導アプローチ）」をご存知でしょうか。アメリカの学校現場から広がり、日本でも実践が始まって問題行動が減少した報告がなされています。「働き方改革」が進められている今、全く新しいことを始めることは負担になってしましますが、このPBISは、今どの学校でも取り組んでいるポジティブな実践を生徒指導に活かすものです。

例えば、以下のような「仲間のよさ見つけ」の取組は、比較的多くの学校に位置付いています。

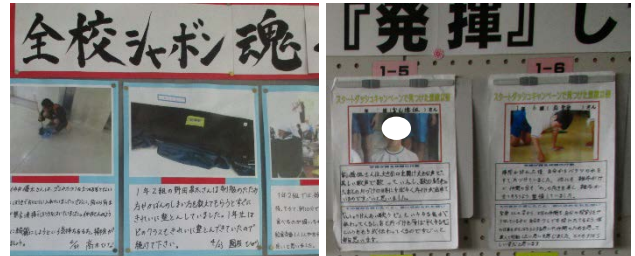
- ① 児童生徒から児童生徒へのメッセージ



#### ② 教師から児童生徒へのメッセージ



#### ③ 児童会・生徒会から児童生徒へのメッセージ



どの掲示物についても「あなたの行動には素晴らしい価値がある」ということを伝える意図があります。この①②③の価値付けを全校職員で連携させることにより、生徒指導に活かすのです。

例えば、自分が担任した学級にAさんという生徒がいて、「問題行動を繰り返している」「毎日のように指導を行ったところ、だんだん登校しなくなった」と申し送りがあったとします。Aさんは自信をなくし、教師に対しての疎外感を抱えています。

そこで、ポジティブな実践を活かします。まず、①②③に挙げたAさんのよさを保護者に具体的に伝え、「AさんにはAさんにしかないよさがある」と話します。そして、そのAさんのよさや頑張りを、管理職や部活動顧問、教科担任など全校職員で共有し、多くの職員で①②③のようなメッセージを渡したり、直接認め励ましの声をかけたりします。

指導されることが多く、教師に疎外感を抱いていたAさんは、少しずつ教師の声に耳を傾けるようになっていきます。また、周りの仲間は、Aさんを教師と一緒に認め励ますようになります。「Aさんは以前とぜんぜん違う」という仲間の声を聞いて、さらにAさんは頑張るようになり、問題行動は減少していきます。

問題行動を取り上げた生徒指導交流だけでなく、①②③のようなポジティブな実践を活かして、児童生徒のよさや頑張りを全校職員で共有することこそが大切だと言えます。

児童生徒数が多い学校ほど負担に感じられるかもしれませんが、この意識を全校職員でもつことが、大きな力になります。ポジティブな実践をぜひ生徒指導に活かしてください。



#### 《教育総合研究所にかかわる、8-9月の行事》

- 8月 2日（木）これから講座①「論文の書き方」
- 3日（金）「ふるさと大垣科」俳句・文学講座
- 20日（月）第2回小中教科別研究会
- 22日（水）特別支援教育講座

9月 28日（金）第4回教育相談研修会

- ※現職教育情報教育サポート各校で実施（8月）
- ※だれもが研修（1）（2）各校で実施（8~9月）